

水道事業の経営状況について

平成 21 年度の水道事業会計決算が 9 月議会で認定されたが、経営状況は大変厳しく、平成 20 年度が 1,312 千円、平成 21 年度は、38,629 千円の経常損失となり、2 期連続しての赤字決算となった。

これは、長引く景気低迷による製造業を中心とした企業の水需要の減少や就労者の転出等による給水人口の減少が大きな要因として考えられる。

水道は生活に欠かせない重要なライフラインであり、将来にわたって安全で安心な水道サービスを安定的に提供していくためには、施設の適切な維持管理や計画的な更新が必要不可欠であるが、給水収益が落ち込む中で、その資金確保の経営環境は非常に厳しいことから、水道料金の改定は避けては通れない喫緊の課題となっている。

【平成 18 年度以降の経営実績】

(金額：税抜)

項目	年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
給水人口 (人)		44,290	44,259	44,005	43,244
日当り平均使用水量 (m^3)		16,413	16,574	16,052	15,273
収益的収入 (千円)		1,023,487	1,037,159	993,052	944,856
収益的支出 (千円)		1,034,249	1,002,504	994,364	983,485
利益 (千円)		10,762	34,655	1,312	38,629

日当り平均使用水量：有収水量（年間の水道料金対象水量） \div 365 日

収益的収入：水道使用料の給水収益が大半

収益的支出：給水に係る費用で、支出比率（平成 21 年度決算）は、受水費 56% 減価償却費 22%
 人件費 7% 企業債支払利息 5% その他 10%

利益：収益的収入 - 収益的支出

【主な建設改良事業計画】

事業名	概算事業費（千円）	事業年度
老朽管改良事業	2,550,000	事業中
石綿管改良事業	666,000	事業中
不動山配水地建設事業	1,124,000	平成 23 年度以降
その他（配水幹管等布設等）	438,000	平成 24 年度以降

上記は水道ビジョン掲載事業の抜粋で、概算事業費は目標年次である平成 38 年度までのもの